

1 単元指導計画 ア：「知識・技能の定着に重点を置く授業」 イ：「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力などを育むことに重点を置く授業」

単元	単元のきよみずガエル君 わかったことはなにケロツ？ できるようになったことはなにケロツ？ けいさんのしかたをおはなしてきたケロツ？			
時	1 (イ)	2 (イ)【本時】	3 (ア)	4 (ア)
ねらい	9+4のような繰り上がりのある加法の計算を、図やブロックを使って考える活動を通して、10のまとまりをつくれればよいことに気づき、計算のしかたを考えることができる。	8+3の計算を、ブロック操作や図で考える活動を通して、被加数の方が大きい繰り上がりのある加法の計算は被加数で10のまとまりをつくとよいことに気づき、和が11以上になる加法の計算をすることができる。	4+8のような加数のほうが大きい繰り上がりのある加法の計算を、ブロック操作をしながら考える活動を通して、加数のほうで10のまとまりをつくとよいことに気づき、計算のしかたを考えることができる。	7+8のような被加数と加数が同じくらいの大きさの加法の計算を、ブロック操作をしながら考える活動を通して、加数分解や被加数分解のどちらの方法でも計算できるよさに気づき、1位数と1位数をたして和が11以上になる加法の計算に習熟する。
問題	9にんであそんでいます。そこに4にんやってきました。 みんなでなんにんになったでしょう。	8+3のけいさんのしかたをかんがえましょう。	りすがきのうえに4ひきいます。そこに8ひききました。 みんなでなんびきになったでしょう。	りんごがちいさいかごに7こ、おおきいかごに8こあります。 あわせるとなんこになるでしょう。
課題	こたえが10より大きくなるたしざんのけいさんのしかたをかんがえよう。	まえのかすが8のたしざんのしかたをかんがえよう。	うしろのかすがおおきいかすのたしざんのしかたをかんがえよう。	かすのさがすくないたしざんのけいさんのしかたをかんがえよう。
まとめ	10のまとまりをつくれれば、10といくつでけいさんができる。	まえのかすが、8のときも、10のまとまりをつくる。	うしろのかすがおおきいたしざんは、うしろのかすで10のまとまりをつくれれば、かんたんにけいさんできる。	まえのかすで10のまとまりをつくっても、うしろのかすで10のまとまりをつくっても、どちらでもけいさんができる。
評価規準	【考】繰り上がりのある加法の計算のしかたを、10のまとまりをつくることに着目して考え、それを説明している。	【考】被加数が8や7の場合も、前時の被加数が9の場合と同じように考えれば計算できると考えている。	【知】1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算のしかたを理解している。	【技】1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算を加数分解や被加数分解でできる。
きよみずガエル君	けいさんのしかたをおはなしてきたケロツ？ ・はじめに 9はあと1で10 つぎに 4を1と3にわけると つぎに 9に4のなかの1をたして10 10と3で13 だから 9+4=13	たしざんのしかたで、わかったことはなにケロツ？ ・まえのかすで10のまとまりをつくれれば、かんたんにけいさんができる。	けいさんのしかたをおはなしてきたケロツ？ ・はじめに 8はあと2で10 つぎに 4を2と2にわけると つぎに 8に4のなかの2をたして10 10と2で12 だから 4+8=12	こたえが10よりおおきくなるたしざんのしかたで、わかったことはなにケロツ？ ・まえのかすで10のまとまりをつくっても、うしろのかすで10のまとまりをつくってもけいさんできる。
具体的な評価の場面	9+3の計算の仕方をブロックを使ってお話ししましょう。(被加数分解)	7+5の計算の仕方を図を使ってお話ししましょう。(被加数分解)	4+7の計算の仕方をお話ししましょう。(加数分解)	6+7の計算の仕方をお話ししましょう。(被加数分解や加数分解)
具体的な児童の姿	(ブロックを使いながら) ・はじめに 9はあと1で10 つぎに 3を1と2にわけると つぎに 9に3のなかの1をたして10 10と2で12 だから 9+3=12	(図を使いながら) ・はじめに 7はあと3で10 つぎに 5を3と2にわけると つぎに 7に5のなかの3をたして10 10と2で12 だから 7+5=12	・はじめに 7はあと3で10 つぎに 4を3と1にわけると つぎに 7に4のなかの3をたして10 10と1で11 だから 4+7=11	・6で10のまとまりをつくった。 6はあと4で10 6に7なかの4をたして10 10と3で13 6+7=13 ・7で10のまとまりをつくった。 7はあと3で10 7に6なかの3をたして10 10と3で13 6+7=13

1 単元指導計画

ア:「知識・技能の定着に重点を置く授業」 イ:「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力などを育むことに重点を置く授業」

単元	単元のきよみずガエル君 わかったことはなにケロツ? できるようになったことはなにケロツ? けいさんのしかたをおはなしてきたケロツ?		
時	5 (ア)	6・7 (ア)	8 (ア)
ねらい	計算カードを順番に並べて、答えが同じになるカードの並び方について考える活動や計算カードを用いた計算の練習を通して、1位数と1位数をたして、和が11以上になる繰り上がりのある加法の計算が確実にできる。	「カードゲーム」のやり方を理解し、計算カードを使ってペアやグループでゲームをすることを通して、楽しく計算の習熟を行い、繰り上がりのある加法の計算が確実にできるようにする。	まとめの練習問題に取り組むことを通して、繰り上がりのある加法の計算についての基本的な内容を理解しているか確認し、それを活用して問題を解決することができる。
問題	カードをつかって、たしざんのれんしゅうをしましょう。	けいさんカードをつかって、ゲームをしよう。	まとめのれんしゅうのもんだいをかんがえよう。
課題	たしざんカードのひみつをみつけよう。	たしざんがたたくけいさんできるようにしよう。	今まで学しゅうしたことをつかって、まとめのれんしゅうのもんだいにチャレンジしよう。
まとめ	たしざんカードをじゅんばんにならべると、こたえがおなじになるカードはななめにならんでいる。		
評価規準	【技】1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算が確実にできる。	【技】1位数がと1位数をたして、和が11以上になる加法の計算が確実にできる。	【技】1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算が正しくでき、それを活用して問題を解決できる。
きよみずガエル君	わかったことはなにケロツ? <ul style="list-style-type: none"> こたえがおなじになるカードがある。 こたえがおなじになるカードのまいすうは、こたえによってちがう。 こたえがおなじになるカードは、ななめにならんでいる。 	わかったこと、できるようになったことはなにケロツ? <ul style="list-style-type: none"> たしざんのけいさんカードをたたくけいさんできた。 カードゲームのしかたがわかって、ともだちとなかよくゲームができた。 	わかったこと、できるようになったことはなにケロツ? <ul style="list-style-type: none"> こたえが10よりおおきくなるたしざんのけいさんができるようになった。 10のまとまりをつくるとかんたんにけいさんできる。
具体的な評価の場面	こたえがおなじになるカードは、どのようにならんでいるかな。	さんすうたまたまばこ カードゲーム	まとめのれんしゅう
具体的な児童の姿	<ul style="list-style-type: none"> こたえがおなじになるカードがある。 こたえが11になるカードがいちばんおおい。 こたえが18になるカードは1まいしかない。 こたえがおなじになるカードは、ななめにならんでいる。 よこにみると、まえのかすが1ずつへっている。 たてにみると、うしろのかすが1ずつふえている。 	<ul style="list-style-type: none"> たしざんのけいさんカードをたたくけいさんできた。 カードゲームのしかたがわかって、ともだちとなかよくゲームができた。 	<ul style="list-style-type: none"> こたえが10よりおおきくなるたしざんは、10のまとまりをつくれればかんたんにけいさんできる。 まえのかすが10のまとまりをつくっても、うしろのかすが10のまとまりをつくってもけいさんできる。 こたえが10よりおおきくなるたしざんのけいさんが、はやくできるようになった。

2 本時のわらい $8+3$ の計算を、ブロック操作や図で考える活動を通して、被加数の方が大きい繰り上がりのある加法の計算は被加数で10のまとまりをつくとよいことに気づき、和が11以上になる加法の計算をすることができる。

3 本時の展開

①単元のきよみずガエル君 わかったことはなにケロッ? できるようになったことはなにケロッ? けいさんのしかたをおはなしできたケロッ?

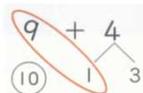
②本時のきよみずガエル君 たしざんのしかたで、わかったことはなにケロッ?

第1ブロック

⑨前時の問題・単元

○ $9+4$ のけいさんのしかたを確かめる。

- ・はじめに 9はあと1で10
- つぎに 4を1と3にわける
- つぎに 9に4のなかの1をたして10と3で13
- だから $9+4=13$
- ・10のまとまりをつかってけいさんした。



⑩学習課題をつかむ思考の活性化

【問題】 $8+3$ のけいさんのしかたをかंगाえましょう。

- 前時の式と同じところと違うところを確かめる。
- ・今日も、たし算の式だ。
- ・答えが10より大きくなりそうだ。
- ・前の時間は前の数が9だったけれど、今日は8になっている。
- ・10のまとまりをつくれれば計算ができそうだ。

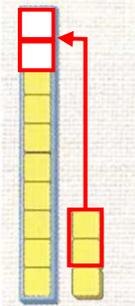
第2ブロック

⑥課題

まえのかすが8のたしざんのしかたをかंगाえよう。

⑦数学的活動の思考の活性化

- ブロック操作をして考える。
- ・はじめに 8はあと2で10
- つぎに 3を2と1にわける
- つぎに 8に3のなかの2をたして10と1で11
- だから $8+3=11$
- 図で考える。



$$8 + 3 = 11$$



- ・10のまとまりをつくと簡単に計算ができる。

⑧まとめ

まえのかすが8のときも、10のまとまりをつくる。

第3ブロック

④問題の2つ目

$7+5$ のけいさんのしかたをすをつかっていみましょう。

⑤振り返り(まとめ)の思考の活性化

- 前の数が7であることを確かめる。
- 自分で考えた後、ペアで交流をする。

$$7 + 5 = 12$$

- ・はじめに 7はあと3で10
- つぎに 5を3と2にわける
- つぎに 7に5のなかの3をたして10と2で12
- だから $7+5=12$

練習問題

- ① $7+6$ ② $7+4$

③本時のきよみずガエル君

- ・前の数で10のまとまりをつくれれば、簡単に計算ができる。

- ・既習の学習内容を掲示し、本時と前時の式の違いを視覚的にとらえられるようにする。
- ・前時の学習を想起させることで、被加数は違うけれど10のまとまりをつくれれば計算ができそうだという解決の見通しを持たせる。

- ・順序良く話ができるように話型を示し、それを手掛かりにしながら考えを説明する時間を位置付ける。
- ・全体交流において、ブロック操作が図のどこになるのかを考えさせ、「10のまとまりをつくる」という共通点を見付けられるようにする。

- ・被加数で10のまとまりをつくることと図の理解を深めるために、「どちらで10のまとまりをつかったのかをはっきりさせて、図で説明しよう。」と投げかける。
- ・習熟を図るための補充問題を準備する。